

今漁期のイセエビ漁況予測

1 伊豆地域におけるイセエビ漁業について

イセエビは、千葉県以南の太平洋沿岸において、主に“刺網漁”（イセエビの行動範囲に網を張り、そこを通過するエビを絡め取る漁法）によって漁獲されており、静岡県をはじめ、沿岸域の各県にとって重要な磯根漁業の対象種となっています。静岡県では伊豆半島で水揚げが多く、特に南伊豆や下田が大半を占めており、漁獲量は昭和60年代以降、増加傾向で推移し、平成26年の漁獲量は約70トンと高水準で安定しています。

当场では、今後もイセエビ資源を持続的に利用できるよう、漁獲量や子エビの混獲尾数、漁獲サイズ等の調査を実施しており、それらデータに基づき今後のイセエビの漁況予測を行っています。

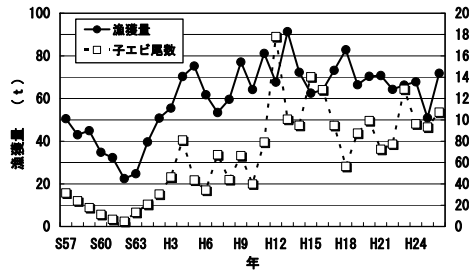


図1 南伊豆・下田地先におけるイセエビ漁獲量と子エビ混獲尾数の経年変動

2 今漁期のイセエビ漁況予測

漁況予測は、海水温、黒潮の流路、イセエビ漁獲量、子エビ混獲尾数等を基に、「平成27年度白浜定地水温の経過と予測」と「平成27年漁期のイセエビ漁獲量の予測」の2つの観点から行いました。（なお、「漁獲量の予測」は、漁獲物調査データがある南伊豆と下田について行いました。）

（1）平成27年度白浜定地水温の経過と予測

まず、7月の旬平均水温は、上旬20.3℃、中旬20.8℃、下旬22.6℃と、平年値（昭和33～平成26年の平均値）と比較して、それぞれ0.9℃、0.9℃、0.4℃低い状況でしたが、8月に入ると、上旬24.8℃、中旬26.3℃、下旬25.0℃と、平年よりそれぞれ1.0℃、2.1℃、0.4℃高くなりました。また、平成27年度第1回長期漁況予報会議における予測文によると、「8月以降、黒潮はC型基調で推移するが、9～10月は流路変動を伴い沿岸域に暖水波及がある。このため、遠州灘から伊豆諸島北部海域の水温は、平年並み～やや高めで推移する」となっています。以上から、解禁直後の9～10月は、水温が比較的高めに推移する可能性が

高く、それに伴い、イセエビの活性も高くなると考えられました。

(2) 平成 27 年漁期のイセエビ漁獲量の予測

ある年の子エビの混獲尾数と、その翌年の漁期のイセエビ漁獲量との関係から導いた計算式に、平成 26 年の子エビ混獲尾数を代入し、平成 27 年漁期（9～5 月）の漁獲量を算出しました。その結果、南伊豆については平成元年以降の平均値（37.9 トン）よりやや多く、昨年の漁獲量（41.2 トン）にほぼ等しい 42.7 トン、下田については平成元年以降の平均値（28.7 トン）および昨年の漁獲量（30.6 トン）にほぼ等しい 30.3 トンとなると予測されました。

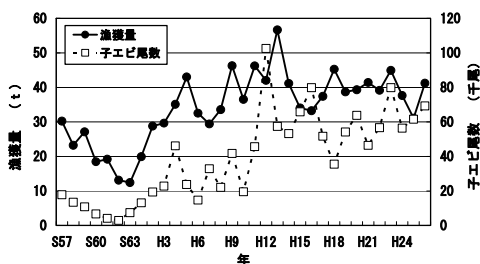


図2 南伊豆地先におけるイセエビ漁獲量と子エビ混獲尾数の推移

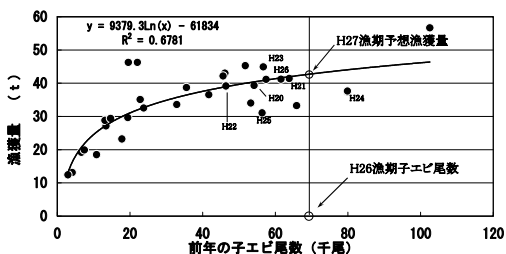


図3 南伊豆地先の子エビ混獲尾数と翌年の漁獲量の関係

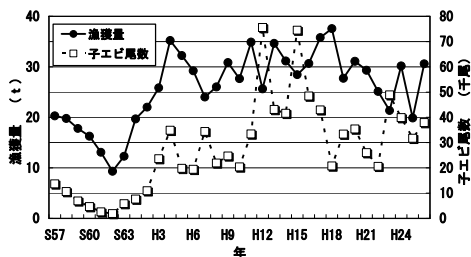


図4 下田地先におけるイセエビ漁獲量と子エビ混獲尾数の推移

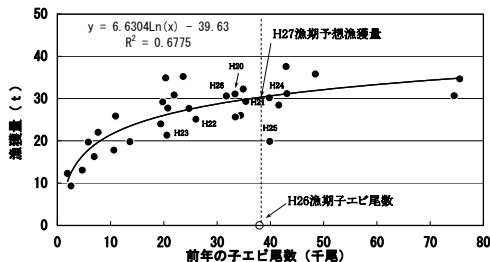


図5 下田地先の子エビ混獲尾数と翌年の漁獲量の関係

以上から、今漁期は水温がやや高めで推移し、イセエビに好適な環境となることから、良好な漁獲が期待できるとともに、子エビの混獲状況から、漁獲量は平年よりやや多くなると予測しました。

今漁期もイセエビの資源水準は高い見通しですが、これは、混獲される子エビの再放流や休漁期間の設定といった、漁業関係者の方々の資源保護の取り組みの成果でもあります。今後もイセエビ資源を高水準で維持できるよう、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

(鈴木勇己)